

市指定天然記念物「小牧小学校校庭のクロマツ」の倒木について

令和 7 年 1 2 月 1 2 日（金）午後 2 時 3 0 分頃、小牧小学校校庭のクロマツ 3 本のうち、西側の 1 本が根際から倒木しました。

当時、4 年生 1 クラスが校庭で体育の授業中でしたが、幸い人的、物的被害はありませんでした。

同日、小学校のカラーコーンとトラバーにより立入禁止措置を行い、翌 1 3 日（土）、1 4 日（日）には倒木したマツの撤去、仮支柱の追加、1 6 日（火）には工事用フェンスにて周囲を囲いました。

その後、樹木医に今回西側のマツが倒木した原因と、残り 2 本のマツの現状について調査を依頼したところ、以下の回答が得られました。

1. 倒木の原因

- ・北からの強い風（当時最大瞬間風速：14.7m/s）や最下部の心材が腐朽し空洞化していることが倒木の主な原因と考えられますが、マツの周辺環境が変化したことや最適な支柱を設置できないことなども、倒木した要因の一つと考えられます。

2. 残り 2 本のマツの状態

- ・倒木したマツと同様に 2 本とも幹は中空になっており、腐朽は進行しています。また、倒木を防ぐためには、現状の支柱よりかなり高い位置に支柱を設置することが必要ですが、スペースの問題などにより現実的には不可能です。また、現状のままでは、今後の強風によっては支柱の横木を支点に幹が折れることも予想されます。
- ・東のマツは 3 本のマツのうち最も健康状態が悪く、根も東側の太い根が校舎建替えの際に切られ、南側にも根が無いため、校舎側又は南側に倒れる可能性は否定できません。
- ・中のマツは幹最下部北～西側が腐朽・空洞化し、また根は東～南東側のみであり、西～南側方向へ倒れる可能性は否定できません。

滅失・き損等届

令和7年12月16日

(あて先) 小牧市教育委員会

住 所 小牧市小牧三丁目17
氏 名 小牧市立小牧小学校
校長 松永 恒二

〔名称及び
代表者氏名〕

下記のとおり市指定の文化財がき損しました。

記

- 1 種別及び名称
天然記念物 小牧小学校校庭のクロマツ
- 2 指定年月日及び指定書の記号番号
平成10年3月27日 第26号
- 3 所在の場所
小牧市小牧三丁目13番地1
- 4 所有者の氏名(名称)及び住所
宗教法人 神明社 小牧市小牧五丁目153
- 5 管理責任者がある場合は、その氏名(名称)及び住所
小牧市立小牧小学校 小牧市小牧三丁目17
- 6 滅失、き損、亡失又は盗難(以下「滅失・き損等」という。)の事実の生じた日時
令和7年12月12日 午後2時30分頃
- 7 滅失・き損等の事実の生じた当時における管理の状況
通常のとおり
- 8 滅失・き損等の原因
北からの強風
- 9 き損の場合は、その箇所及び程度並びに市指定の文化財がその保存上受ける影響
3本の松のうち、西側の松が根元から倒壊。
他の2本も支柱により支持されているが、幹が中空になっており、今後同様に倒壊する可能性がある。
- 10 滅失・き損等の事実の知った日
令和7年12月12日
- 11 滅失・き損等の事実を知った後に執られた処置

追加の仮支柱を南面に設置するとともに、周囲を工事用フェンスで囲い、立入禁止とした。

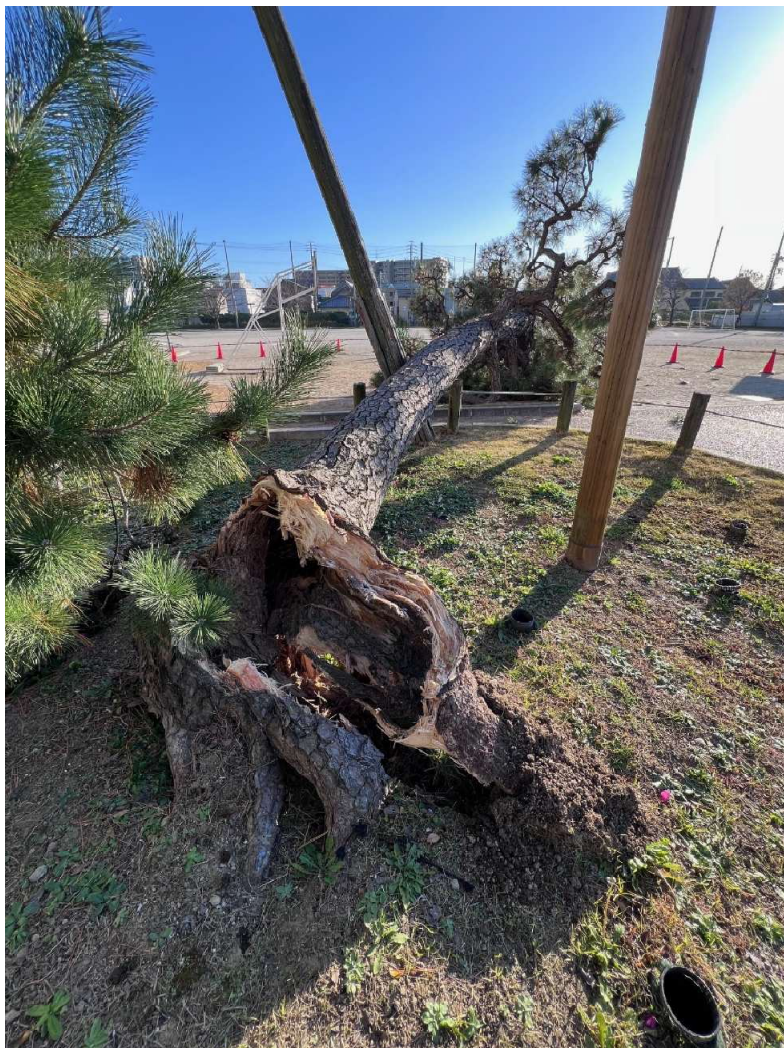
12 その他参考となるべき事項

(添付書類)

滅失・き損等の状態を示すキャビネ型写真及び図面



令和7年12月12日（金）倒木直後の様子



幹内部の空洞化の状況



現在の状況（フェンス、仮支柱追加）

様式2 **ふるさと樹木診断調書**

樹木の名称	小牧小学校 クロマツ	[市町村名]	小牧市	No.	5
診断年月日	2024年10月31日				
診断者	村橋敬子 大野光義				
立会者	浅野氏 (文化財課)				

樹木の形態等

樹種名	クロマツ				指定種別	樹木保存法 文化財(条例) 要綱 要領			
所在地	小牧市小牧3-13-1					天然記念物(国 県 (市) 町村)			
所有者(管理者)	小牧市				地域のシンボル平成10年3月27日~				
樹齢	推定 伝承		150年		成 立 地	境内(構内)公園庭市街地 その他()			
東	樹高	18.0 m			日 照	(良) 並 不良			
	幹周	2.25 m				立 通 風	(良) 並 不良		
	枝張	東へ	南へ	西へ	北へ		環 境	乾湿	乾 (並) 湿
		3.7 m	7.8 m	3.2 m	1.2 m	排水		良 (並) 不良	
	下枝高	10.0 m (西)			踏 圧	無 すこぶる堅い 堅い (やや堅い)			
土性	砂土 (砂壤土) 壤土 埴壤土 埴土 石礫土								
中	樹高	17.0 m			日 照				
	幹周	1.99 m				立 通 風			
	枝張	東へ	南へ	西へ	北へ		環 境	乾湿	
		1.8 m	7.5 m	4.5 m	2.6 m	排水			
下枝高	10.0 m (西)			踏 圧					
西	樹高	14.0 m			日 照				
	幹周	1.75 m				立 通 風			
	枝張	東へ	南へ	西へ	北へ		環 境	乾湿	
		2.4 m	8.1 m	5.8 m	1.9 m	排水			
下枝高	8.5 m (東)			踏 圧					



東の松 北面開口部 (補修済み)



↑ 全景 (南側から)
地際部支持力の欠損と幹中空の故に、倒木防止のための支柱が施されている

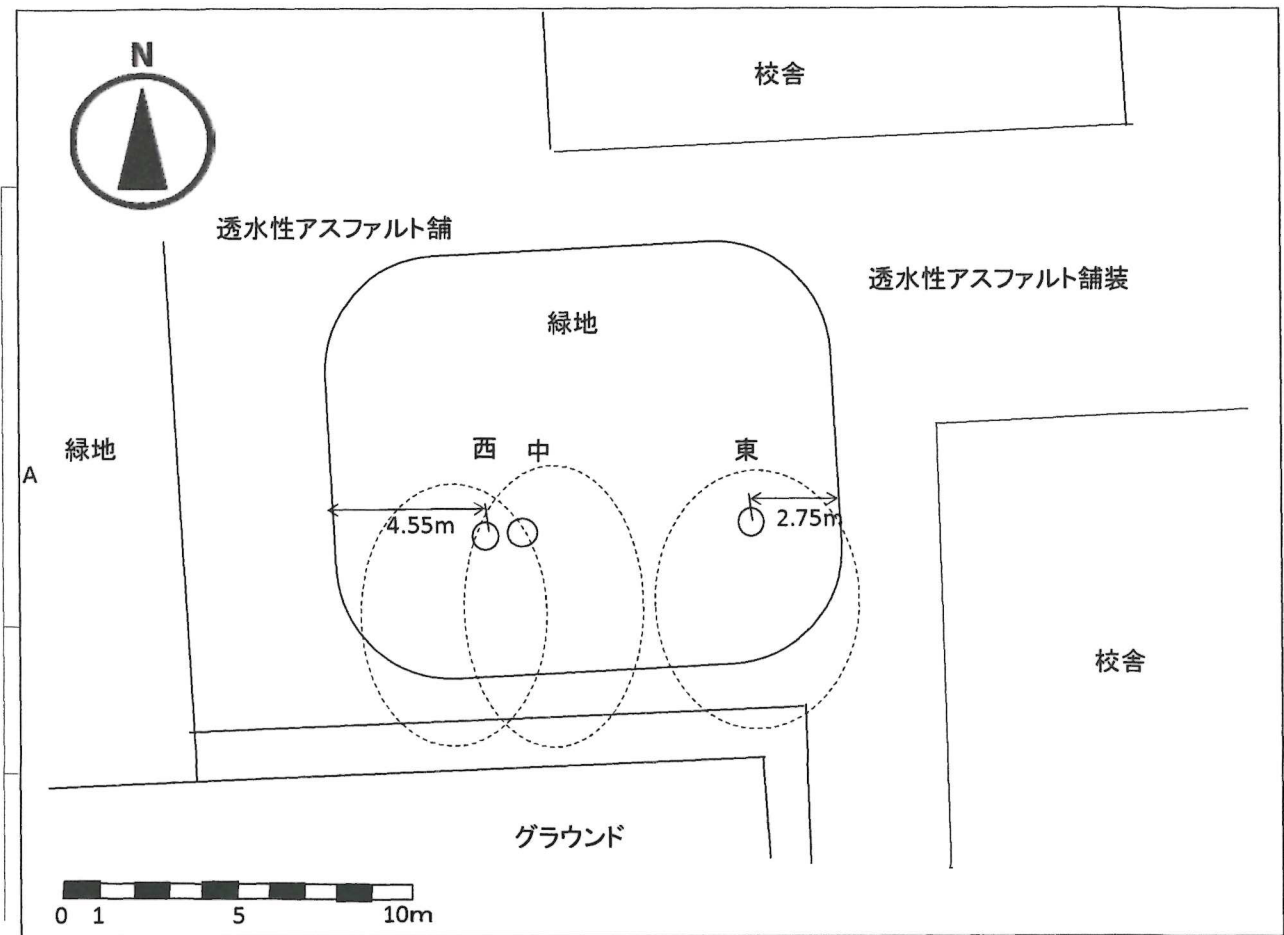


東の松 枝が比較的細くて枝が下がっており、成長量が少ない

樹 勢 の 診 断		樹木の名称	小牧小学校の3本松	No.	5
測定項目	評 価	測定項目	評 価		
樹 勢	成育状態が良好 異常が認められる	若干被害がある 成育状態が劣悪	病 害	葉の病気 有 ()	無
				枝や幹 有 ()	無
樹 形	自然形を保持 自然樹形の崩壊が進行	若干乱れるが自然樹形 自然樹形が完全に崩壊	虫 害	食葉性 穿孔性 吸汁性 虫えい形成	無
	人工樹形		気象害	寒害 凍害 風害 乾燥害 落雷 その他 ()	無
枝の伸長量	正常 枝は短く細い	幾分少ないが目立たない 枝は極度に短く捻れもある	土 壤	踏圧害 乾燥害 湿害	無
			幹	空洞 腐朽 (外科手術痕)	無
梢端の枯損	無	少しあるが目立たない かなり多い 著しく多い	根	根株の腐朽 有 無 不明	
	枝葉のバランスが良 やや疎	枝葉のバランスがやや劣 枯枝が多く密度が著しく疎	その他	きのこの発生 根部にきのこ 植物等の着生	
幹、大枝 の状況	正常 傷、空洞、腐朽菌が認められる 傷、空洞、腐朽菌が著しく目立つ	傷、空洞が少々あるが目立たない			
<p>【現況】</p> <p>明治41年(1909年)南宮神社跡に校舎が立てられた時の写真によると、明治の初め頃芽生えた松と推定される。南側が低い地形だったため、幹は南へ少し傾き、根は北方向へ強く伸びている。雄大に伸びた樹形であるが、打音異常がどの幹にもみられ、幹が中空になっている。支持力のある外周部が薄くなったことを示している。</p> <p>地際部の樹皮欠損(支持力喪失)は、西の松で 31% (0.88m/2.80m) 、中の松で55% (1.73m /3.13m) と異常に大きい。</p> <p>幹や地際の傷が深いので、2012年から電柱のような丸太支柱が設置されている。</p> <p>松くい虫対策は、ネマバスターの土壤灌注により、毎年実施されている。</p>					
<p>【原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2012年校舎全面建て替えが完了した。三本松の植栽樹は縮小されていないが、植栽樹外の土の地面であった東側と西側は透水性舗装の為、重機で固められた。太かった根は活性を失い、能力が低下していると考えられる。 昭和39年まで木造校舎の間に位置しており長大な枝は許されなかった為、枝が剪定されその切断痕から開口空洞ができた。 開口空洞からの雨水侵入により幹の心材腐朽が進行した。 					
<p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 西側と東側の舗装の変更は今更困難である故、根が少ない南側へ新しい根を誘導する方向で努力する。堆肥・パーミキュライト・緩効性肥料を混合して与え、土壤改良を兼ねつつ施肥する。 開口空洞を再点検し、雨水を進入しにくくする対策を実施する。(診断当日、市担当者の同意あり)。 丸太支柱、支柱取替は今後も欠かせない。 					

小牧小学校 クロマツ履歴

- 1964 昭和34年 伊勢湾台風により梨本宮殿下御手植えのクロマツの3本立の幹のうち2本が折損し、その後移植されたが枯死した。
- 昭和39年に校舎の配置換えにより舎の間にあった別のクロマツ3本が運動場に面する事となり、その存在感の大きさから「三本松」として定着した。
- 1968 昭和38年以降工事により北側7m以遠の根は切断された。
- また、南側に弧状に石組がされ根が被圧されてきた。
- 1978 昭和53年にU字溝設置の為根を切断された。また、西のマツの南2mにクスノキが生長し被圧を受けた。
- 2001 平成13年、赤班葉枯れ病の症状があり、対策として根を干渉する樹木と芝を撤去し、土壌改良した。西の松と競合していたクスノキも伐根された。
- 2007 平成20年 中の松の地際西側に支持力欠損があり、倒木防止のため支柱を設置した。
(中の松地際の欠損理由は不明。)
- 2012 平成24年、校舎の全面建て替えにより、裸地だった周辺が透水性アスファルト舗装となった。南側の石組は撤去された。
- 2013 平成25年 支柱の補強がなされた。
- 2014 平成26年 再び赤班葉枯れ病が発生。西側の舗装上の締固めと7~8月の断続的な降雨による酸素不足と診断され、多数の酸素管設置がなされた。
- 2024 現在、赤班葉枯れ病は見られない。



西の松



西の松（東側より）
根株南側から東側にかけて過去の腐朽により太根が無く、支持力もない。



中の松（西側より）
根株西側から南側にかけては根が無く支持力も無い。



西の松（西側より）
西側の根分岐下部から腐朽空洞は幹中心部に達している。

中の松



クロマツの苗木を南側根元に植栽し癒合を試みたが、癒合には至っていない

東の松



東の松（北側より）
北側の太根下部からの腐朽空洞は幹中心部に達している。



市指定天然記念物の指定解除について

令和8年2月6日

(あて先) 小牧市教育委員会

住所 小牧市小牧三丁目17番地

氏名 小牧市立小牧小学校

校長 松 永 恒



平成10年3月27日指定(第26号)の市指定天然記念物「小牧小学校校庭のク
ロマツ」について、3本のうち、西側の1本が根元から倒木し、残りの2本のマツ
も、地際部の欠損や幹内部の空洞化が進んでおり、倒木する可能性があり、児童の安
全のためには伐採せざるを得ない状況のため、指定を解除してください。


その他参考となる資料

- ・土地所有者の同意書

同意書

令和8年2月4日

(あて先) 小牧市教育委員会

住所 小牧市小牧5丁目153番地
(名称) 小牧神明社 氏子総代会 会長
氏名 舟橋 信寿 
代表者

私が所有する土地に所在する下記物件について、小牧市文化財保護条例の規定による天然記念物の指定解除および伐採について同意します。

記

- 1 名称 小牧小学校校庭のクロマツ
- 2 員数 2本
(3本のうち西側の1本については、令和7年12月12日の強風により倒木し除去済)
- 3 所在の場所 小牧市小牧三丁目13番の1
- 4 管理者 小牧市立小牧小学校

7小教文第1337号
令和8年2月9日

小牧市文化財保護審議会
会長 小野佳代様

小牧市教育委員会
教育長 中川宣芳



小牧市指定文化財の指定の解除について（諮問）
このことについて、下記物件の指定の解除について、小牧市文化財保護条例
第41条の規定により、貴審議会の意見を求めます。

記

- | | | |
|---|---------|--------------|
| 1 | 種別 | 天然記念物 |
| 2 | 名称及び員数 | 小牧小学校校庭のクロマツ |
| 3 | 所有者等の住所 | 小牧市小牧三丁目17番地 |
| | 氏名 | 小牧市立小牧小学校 |



小牧市文化財指定調書

平成10年2月4日

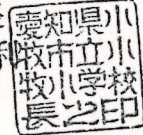
小牧市教育委員会 殿

住所 愛知県小牧市小牧三丁目17番地

愛知県小牧市立小牧小学校長

氏名 丹羽道和

(名称及び
代表者氏名)



小牧市文化財保護条例の規定による 天然記念物 の 指定 を受けたいので、
~~選定~~

下記のとおり調書を提出します。

記

- 種別および名称 小牧小学校 校庭のクロマツ (マツ科)
- 員数 3本
- 所在の場所 小牧市小牧三丁目13番地の1
- 所有者等の氏名 (名称) および住所 神明社
小牧市小牧五丁目153番地
- 現状 (品質、形状、構造、重量、大きさ、地積等) 樹高約18m, 胸高囲 210cm, 182cm, 160cm.
- 由来および沿革 以前、南宮社の社叢部の一部であったものが校地に残り、長い間 学校が保護してきた。
古くから「小牧の三本松」と呼ばれ、親しまれてきた。
- 徴証、伝説、作者等
- その他参考となる事項

(添付書類)

- 現状を示すキャビネ型写真および幻灯用スライド
- 地積図 (史跡、名勝または天然記念物の場合)
- 当該文化財の重要性及び保護の必要性を示す参考書類